多発性骨髄腫研究助成　2025 年度研究課題選考会総括

本研究助成は、骨髄腫患者さんとそのご家族、そして日本骨髄腫患者の会の活動を応援していただいている多くの方々のご厚意とご寄付により成り立っています。2002 年度に始まり、2025 年度は第 24 回研究助成となります。骨髄腫診療に携わる医師や研究者にとって名誉ある研究助成として認識していただいています。患者さんの「骨髄腫治療の進歩に対する強い願い」という視点で、厳しく選考させていただきました。また昨年度から、骨髄腫の治癒を目指した研究に相応しい課題を森広助成として特別に選考させていただいています。審査委員会では、応募課題 12 題について研究の「重要性」「計画・方法の妥当性」「独創性」「波及効果」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評価について 5 名の選考委員により一次審査を行い、同時に患者・家族の視点から 2 名の患者・家族委員による評価もいただきました。二次審査は、全委員が参加してウェブ会議で開催しました。今年度も優れた応募課題が多く選考に苦慮致しましたが、特に評価の高かった 4 課題を採択させていただきました。

2025 年度 森広助成　助成総額 200 万円

熊本大学生命資源研究・支援センター　疾患エピゲノム制御分野　大口 裕人 先生　「多発性骨髄腫に RNA 制御異常の理解から挑む」

徳島大学大学院医歯薬学研究部　血液・内分泌代謝内科学分野　原田 武志 先生
「多発性骨髄腫における ADAR1 p150 依存的二本鎖 RNA ストレス応答制御機構の解明」

2025 年度 多発性骨髄腫研究助成　助成額総額 200 万円

金沢大学融合研究域融合科学系　血液内科　高松 博幸 先生
「骨髄検査を必要としない血清/血漿を用いた新規骨髄腫微小残存病変検査の開発」

大阪大学微生物病研究所・環境応答研究部門　情報伝達分野　蜂矢 健介 先生
「免疫療法の改善を目指した、骨髄腫における病的血管形成メカニズムの解明とその制御」

大口先生と原田先生の課題は、骨髄腫細胞に蓄積する異常な RNA の意義を明らかにする事によって、将来の RNA ストレスを標的とした新規治療法開発へとつながる可能性が期待されて森広助成に選ばれました。大口先生は、骨髄腫細胞に高頻度に認められる *DIS3* 遺伝子変異による腫瘍の進展機構と、その結果細胞内に蓄積する異常 RNA の処理機構を解明しようとしています。原田先生は、骨髄腫細胞の悪性化に関連する染色体 1q 上に存在する ADAR1 p150 という蛋白が異常な RNA をどのように認識・編集して RNA ストレスによる細胞死を回避しているのかを解明しようとしています。

高松先生の課題は、血液中の可溶性 B 細胞成熟抗原（sBCMA）や骨髄腫細胞から分泌さ

れる細胞外小胞上の異常な接着分子（aITBG7）を高感度な検査系で測定する事によって、微小残存腫瘍の有無を調べるための骨髄検査を回避できるようにしようという研究です。蜂矢先生の課題は、骨髄腫細胞の近隣に存在し CXCL10 というケモカインを分泌して患者さんの抗腫瘍免疫機構を抑制している病的な血管が形成されるメカニズムを突き止めて、将来の治療標的分子を同定しようとする研究です。

基礎研究、臨床研究を問わず、日夜奮闘されておられる諸先生から今後も本研究助成事業に多数の応募があり、研究成果が患者のみなさまのお役に立つことを祈っております。

2026 年 10 月

日本骨髄腫患者の会　多発性骨髄腫研究助成　選考委員会委員長

飯田 真介